

シカゴ大学における幼稚園教員養成カリキュラム

—20世紀初期の音楽領域を中心に—

井本 美穂

岡山理科大学教育学部初等教育学科

(2021年11月1日受付、2021年12月9日受理)

1. はじめに

19-20世紀転換期は、米国の幼稚園教育が大きく変化した時期である。幼稚園が公立学校制度に導入されたことにより、幼稚園教員には、学校教育機関における教員としての素養が求められるようになった。教育理念と方法に関しては、フレーベル主義から進歩主義教育へと移行する過渡期であった。

従来歌唱のみ行われていた音楽活動については、この時期にリズムに合わせた動作、歌の創作が加わり、これらの音楽活動を展開するために、幼稚園教員に求められる音楽能力は多様になっていった。

このような幼稚園教育をめぐる状況を背景に、幼稚園教員養成課程における音楽領域ではどういった内容が扱われていたのか、また音楽の役割はどうか捉えられていたのか。これらの点を明らかにする一端として、本稿ではシカゴ大学教育学部の幼稚園教員養成コースの音楽領域に焦点をあてて考察する。

シカゴ大学はデューイが実験学校を設立したことで広く知られており、そこでの教育が目目されてきた。シカゴ大学教育学部の教育内容については、デューイが在籍していた1898年から1903年までのシラバス（『シカゴ大学年次録（Annual Register）』）が分析されている（伊藤、2016）。しかし、幼稚園教員養成カリキュラムの内容については、いまだ明らかになっていない。

そこで本稿では、まずシカゴ大学教育学部幼稚園教員養成コース全体の授業科目を明らかにしたうえで、音楽担当教員の音楽教育観とシカゴ大学幼稚園教員養成コースにおける音楽の授業科目の内容との関連性について考察する。その結果をふまえて、シカゴ大学幼稚園教員養成コースにおける音楽授業の特徴を検討する。

2. シカゴ大学教育学部における幼稚園教員養成分野の授業科目

シカゴ大学教育学部は、1901年にパーカー（Parker, F.W.）を学部長として開設された。それ以前は教育学を学ぶことができる部門として、1895年にデューイ（Dewey, J.）を学科長としてシカゴ大学教育学科が開設されていた。教育学部が設置されて以降は、デューイの教育学科では教育学の研究、師範学校や教員養成校の教師および教育長といった専門職の育成を行い、パーカーの教育学部では、初等教員の養成を行っていた。パーカーが1902年に急逝した後、同年にデューイが教育学部長に就任した。これに伴い、教育学科の学士課程は教員スタッフとともに教育学部に移され、その他は哲学科の教育学部門の位置づけとなった。1903年度の段階でシカゴ大学教育学部は、従来教育学部が担ってきた初等教員養成と教育学科が担ってきた教育専門職教育を行うことのできる組織として整備された（伊藤 2016, p.148）。しかし1904年度、デューイが辞任した後は再び入学要件が引き下げられ、伊藤（2016）はデューイがシカゴ大学教育学科および教育学部においてめざしたシニアカレッジ相当の入学者に対する教員養成と大学院レベルの教師教育は維持されなかったと分析している（伊藤 2016, p.157）。

教育学部の幼稚園教員養成の分野は、1906年度に「幼稚園コース」としてジュニア・カレッジコースとシニア・カレッジコースの両方に独立して設けられた。それまでは、教育学部（1901年度以前は教育学科）という大きな枠の中かで、幼稚園に関する科目を履修する形となっていた。

1905年度以前の幼稚園教員養成に関する授業としては、1896年度から1900年度までの教育学科における幼

稚園に関係する科目として〈現代ドイツ教育学の視点〉¹（1896年度）で、フレーベルの名前が挙げられているほか、フレーベルを主題とする〈セミナー（フレーベル）〉（1898年度）、および〈フレーベル〉（1899年度）と題した授業が開講されている。ただし、これらの授業は幼稚園教員養成という目的よりも、フレーベルの教育思想の研究という色合いが強い。

1901年に設立された教育学部においては、1901年度のシラバスに〈幼稚園の教育学：子どもの遊び〉（発展的な遊びについての発生的研究、および成長のために手作業を教育的なものとして適用する可能性）と〈幼稚園の教育学：ゲーム〉（幼年期からの個人的および社会的なゲームについての発生的研究）の2科目が含まれており、ペイン（Payne, B.）が担当している（表1参照）。

表1. 1905年度以前のシカゴ大学教育学部幼稚園関連授業科目

1901-1902年	幼稚園の教育学： 子どもの遊び	幼稚園の教育学：ゲーム			
1902-1903年	幼稚園と初等学校を 関連づけた教育学	フレーベルの教育哲学と 後の教育者との比較			
1903-1904年	幼稚園の方法	フレーベルの教育哲学	フレーベルの教育哲学と 後の教育者との比較	幼児の精神的発達	
1904-1905年	フレーベルの教育哲学	幼稚園の改革	幼児の精神的発達	幼稚園の理論と実践： 初級	幼稚園の理論と実践： 上級
1905-1906年	フレーベルの教育哲学	幼稚園の改革	幼児の精神的発達	幼稚園の理論と実践： 初級	幼稚園の理論と実践： 上級

（*The School of Education*（1901-1905）より筆者作成）

1902年度には、〈幼稚園と初等学校を関連づけた教育学〉〈フレーベルの教育哲学と後の教育者との比較〉の授業科目が設定され、いずれもペインが担当している。〈幼稚園と初等学校を関連づけた教育学〉の授業では、3歳から8歳までの子どもの精神的成長の研究、および指導の方法と目的を扱っており、初等学校の2、3学年との関連まで授業対象としている点が注目される。ペインは幼稚園と初等学校への接続の重要性を述べた論文を執筆しているが（Payne, 1902）、シラバスから、単に幼小接続期のみではなく、その後の学年を見据えた指導のあり方を探究していたことが明らかとなった。〈フレーベルの教育哲学と後の教育者との比較〉では、フレーベル後の新しい教育思想との比較をとおして、フレーベルの思想についての理解を深める内容となっている。

1903年度には、〈フレーベルの教育哲学と後の教育者との比較〉に加えて〈フレーベルの教育哲学〉が授業科目として設定され、『人間の教育』『母の遊戯』の著作を研究し、その原理を自然活動およびゲームへ援用する内容となっている。〈幼児の精神的発達〉は、乳児から7歳までの子どもの精神的成長を扱う授業である。〈幼稚園の方法〉は、幼稚園において1日に2時間観察と実践を実施し、幼児の精神的成長および社会的状況に基づく教育原理を適用して討論する内容である。

1904年度には新たに〈幼稚園の理論と実践〉（初級、上級）の科目が設定された。初級では、子どもの精神的成長と社会生活に基づく幼稚園の仕事と遊びの研究が内容となっており、1日2時間実践的授業を幼稚園で実施する。上級は初級の継続として、輪遊び、リズム、競争的ゲームおよび劇をとり入れた遊びなどが扱われており、幼稚園および初等学校段階での活動を計画し、実践する内容となっている。1905年度も1904年度と同様の授業科目である。

以上より、1905年度までの幼稚園教員養成に関する授業は、フレーベルの教育思想を理解し、実践に援用する方法が学ばれていたことが明らかとなった。さらに、フレーベル以降の新たな教育者の思想との比較が行われていたことも題名から読み取れる。しかし、その具体的な教育者の名前までは記載されておらず、今後解明が必要である。

幼稚園分野が設立された1906年度以降は、1905年度までの科目に加え、〈子どもとカリキュラム〉という

¹ 授業科目名を〈 〉で示す。

科目が設置された（表2参照）。これは幼稚園および初等学校段階の子どもの発達の過程を学び、その発達に
適応した活動および教育内容を検討する内容となっている。また〈幼稚園の改革〉という授業が開講され、
フレーベルの教育理念および心理学と他の教育者の理念・心理学を比較する授業となっている。

表2. 1906年度のシカゴ大学教育学部幼稚園関連授業科目

幼稚園コースの科目						幼稚園コース以外から選択				
子どもと カリキュラム	幼年期および 幼少期における 精神の発達	幼稚園の理論と 実践（初歩）	幼稚園の理論と 実践（初歩）	フレーベルの 教育哲学	幼稚園の理論と 実践（上級） ゲーム、リズム等	幼稚園および 初等学校に おける音楽	幼稚園および 初等段階の音楽	幼稚園と初等段階 のための音楽 (2年目)	デザイン	造形
幼稚園の理論と 実践（上級） 自然研究、自立 した子ども	幼稚園の改革	幼年期および 幼少期の精神発達	幼稚園の進化 (発展)	幼稚園の進化 (発展) A	幼稚園における理論 と実践 (上級)					

(The School of Education (1906-1907) より筆者作成)

1911年度にはさらに、〈幼稚園のプログラムについての批判的研究〉という科目が追加されている。この
授業は、様々な教育原理を比較し、どのようにそれらの原理を幼稚園のプログラムに取り入れるかについて
検討する授業となっている。特に教具の使用方法について考察をすることが示されており、フレーベルの思
物およびそれに代わる道具の使用方法について討論が行われたと考えられる。

1914年度からは、小学校との接続に重点をおき、コースの名称を「幼稚園—初等教育」に変更している。
フレーベルの教育については、1916年度までは彼の哲学や理論を学ぶ授業が開講されていたが、1917年度以
降はフレーベルの名前を冠した授業は実施されていない（表3参照）。代わりに〈幼稚園カリキュラムと方法
についての批判的研究〉という授業が組み込まれ、これまでの幼稚園におけるカリキュラムの問題点と課題
を検討する内容が展開されている。

表3. 1917年度のシカゴ大学教育学部幼稚園関連授業科目

幼稚園の理論 入門	幼稚園 カリキュラム	発展的な手技 (occupation) : 使用の根本的な原理 と方法	初等学校の方法 : 読書、言語、文学	初等学校の方法 : 数と科学	遊びとゲーム	幼稚園カリキュラム と方法についての批 判的研究 (上級)
幼稚園のプログラム と方法についての 批判的研究	幼稚園の訓練と 管理 (上級)	幼稚園における 実践教授	上級実践教授	初等段階における 実践教授	幼稚園と初等段階に おける音楽	幼稚園および初等 段階における文学

(The School of Education (1917-1918) より筆者作成)

また、1920年度には、より高度な教育を提供するために、学士号を取得する4年制コースを基本とし、指導
主事を育成するための授業も開講されるとともに、幼稚園教員養成コースを廃止することが決定されている。

以上より、授業の構成がフレーベルの教育思想に基づくものから、児童研究および進歩主義教育思想をと
り入れた多様な幼児教育のあり方を学ぶ内容へと変化していることが明らかとなった。

こうした幼稚園教員関連科目の内容をふまえて、次項では幼稚園教員養成コース廃止前の1920年度までの
幼稚園の音楽に関する授業科目の内容、および担当者がいかなる教育観をもっていたのかについて考察する。

3. シカゴ大学教育学部の音楽の授業科目と担当教員の音楽教育観

音楽の授業については、1916年までは、音楽コースで幼稚園教員養成用に開講されている授業を履修する
形となっている。1917年からは、幼稚園教員養成分野のなかに位置づけられ、履修の際の必須前提条件とし
て、読譜能力を有していることが記載されている。1902年までの幼稚園に関連する音楽授業については、シ
ラバスに記載がない。しかし、この時期の音楽の指導については〈幼稚園教育学〉（ペイン担当）の授業内

容に含まれていたことが、1902年にペインが執筆した論文 (Payne, 1902) から推察することができる。論文によると、〈幼稚園教育学〉における授業内容は、恩物 (gift-work)、作業 (occupations)、ゲームと遊び、歌、自然研究、児童研究の解釈と扱い方についてであった。歌の授業として、下記の内容が扱われていたことが示されている。

「幼稚園教育学」の歌唱授業の内容 (Payne,1902,p.8)

1. 幼児にとって良い歌の要素について知る。
 - (a)メロディーと伴奏が純粹で多様性をもっている、(b)歌詞の内容が美しい、
 - (c)歌詞と音楽が一致している、(d) 子どもの声域に合っている。
2. 典型的な歌を歌い、その歌について討議する。
3. 子どもの声の本質を知る。
4. ピアノの使用方法を学ぶ。
5. 聴取および歌唱をとおして創造力を養う。
6. 音高はずれの子どもへの対応方法を知る。

この記述より、ペインの考える「幼児にとっての良い歌」は、子どもの声域を考慮しつつ、歌詞・旋律・伴奏の調和がとれた曲であったことがわかる。また、実際に歌うことで実践力を向上するなかで、音高はずれの子どもへの指導方法も教授されていたことが明らかとなった。また、聴取・歌唱が創造力の育成を目的の1つとして行われていたことは、注目に値する。

1903年度からは、各科目専門分野の音楽部門において、幼稚園教員養成用の音楽授業を開講し、スミス (Smith, Eleanor) が音楽を担当している。また、1906年の幼稚園教員養成部門開設から1910年までは、スミスが主に音楽を担当し、1910年以降は、カーン (Kern, Mary R.) が担当している (表4)。そこで、この2人に焦点をあて、授業科目と照らし合わせながら、当時の幼稚園における音楽授業の内容について考察する。

3-1. スミスによる自己表現力育成を重視した音楽指導

スミス (Smith, Eleanor) は、クック郡師範学校を卒業後、シカゴのハーシー音楽学校 (Hershey Music School) で学び、さらにベルリンに3年間留学してヘイ (Hey, Julius) に声楽を、モシュコフスキー (Moszkowski, Moritz) に作曲を学んだ。1889年から1892年までは、シカゴ幼稚園養成校およびフレーベル幼稚園学校にて音楽の講師を務めた (Chicago University Annual Register 1902, p.36)。1890年、スミスはシカゴにあるアダムのフルハウスを訪れたことをきっかけに、フルハウスで音楽教室を始めた。1893年には、フルハウスに音楽学校を設立し、歌唱、耳の訓練、読譜と記譜を教えた。スミスはフルハウスに加えて、幼稚園教員養成校であるシカゴ幼稚園カレッジおよびシカゴフレーベル協会の幼稚園カレッジにも勤めていた。1895年には、フルハウスでフレーベル訓練学校が開始され、スミスはそこで歌唱指導を行っている。

スミスは多くの歌を作曲していくなかで、自分自身の教育理念がフレーベルの理論と強い親和性があることを見いだした。エルロッド (2001) は、スミスはフレーベルと同様に、子どもは自分の発達段階に即した発見の活動をとおして最も学ぶと信じていたと述べている (Elrod 2001, p.130)。スミスはこの信念に基づき、訓練校において歌のゲームおよび他の活動と関連づいた歌の使用を基盤として音楽実践を行った。この教育方法は、後に出版される彼女の歌集と教科書に反映されているとエルロッドは分析している (Elrod 2001, p.130)。

さらにスミスは、教育的、哲学的な理念をパーカーとデューイという、進歩主義教育運動の先駆者とともに仕事をすることをとおして形成したことも示されている (Elrod 2001, p.130)。

進歩主義教育は、発見と活動をとおして学ぶことに焦点をあて、学生の個別のニーズにカリキュラムを適合させる特徴をもつ。スミスはこの点に自分の信念との共通点を見いだしたのではないかと考えられる。

表4. シカゴ大学教育学部における音楽関連授業の内容

担当教員	科目名	内容
スミス (Smith)	幼稚園と初等段階における音楽	声の文化：息継ぎ、歌の解釈。幼稚園の歌とゲーム。歌の選択についての基本。耳の訓練、リズムカルな歌とゲーム。幼稚園と学校に適した器楽曲の批評、読譜の準備。音符の読み方と書き方の最初の段階。旋律の作曲。
スミス (Smith)	幼稚園と初等段階における音楽 (2年目)	幼稚園と初等段階のための歌の特別な研究。声の文化。歌の解釈。耳の訓練。読譜と記譜。パートに分かれて歌うことの導入。教授法。
スミス (Smith), ブラッドレイ (Bradley)	幼稚園と初等学校における音楽	子どもの声、耳の訓練、リズム、読譜および記譜。旋律の記述。音楽教材。解釈。子どものオリジナルの旋律による作曲
スミス (Smith)	幼稚園と初等段階における音楽	声の文化：息継ぎ、歌の解釈。幼稚園の歌とゲーム。歌の選択についての基本。耳の訓練、リズムカルな歌とゲーム。幼稚園と学校に適した器楽曲の批評、読譜の準備。音符の読み方と書き方の最初の段階。旋律の作曲。
スミス (Smith)	幼稚園と初等段階における音楽 (2年目)	幼稚園と初等段階のための歌の特別な研究。声の文化。歌の解釈。耳の訓練。読譜と記譜。パートに分かれて歌うことの導入。教授法。
ブラッドレイ (Bradley), レイリー(Reilly)	幼稚園と初等学校における音楽	子どもの声、耳の訓練、リズム、読譜および記譜。旋律の記述。音楽教材。解釈。子どものオリジナルの旋律による作曲
スミス (Smith)	幼稚園と初等段階における音楽	声の文化：息継ぎ、歌の解釈。幼稚園の歌とゲーム。歌の選択についての基本。耳の訓練、リズムカルな歌とゲーム。幼稚園と学校に適した器楽曲の批評、読譜の準備。音符の読み方と書き方の最初の段階。旋律の作曲。
スミス (Smith)	幼稚園と初等段階における音楽 (2年目)	幼稚園と初等段階のための歌の特別な研究。声の文化。歌の解釈。耳の訓練。読譜と記譜。パートに分かれて歌うことの導入。教授法。
グッドリッチ (Goodrich), レイリー(Reilly)	幼稚園と初等学校における音楽	子どもの声、耳の訓練、リズム、読譜および記譜。旋律の記述。音楽教材。解釈。子どものオリジナルの旋律による作曲
スミス (Smith)	幼稚園と初等段階における音楽	声の文化：息継ぎ、歌の解釈。幼稚園の歌とゲーム。歌の選択についての基本。耳の訓練、リズムカルな歌とゲーム。幼稚園と学校に適した器楽曲の批評、読譜の準備。音符の読み方と書き方の最初の段階。旋律の作曲。
スミス (Smith)	幼稚園と初等段階における音楽 (2年目)	幼稚園と初等段階のための歌の特別な研究。声の文化。歌の解釈。耳の訓練。読譜と記譜。パートに分かれて歌うことの導入。教授法。
マクゴワン (MacGowan), レイリー(Reilly)	幼稚園と初等学校における音楽	子どもの声、耳の訓練、リズム、読譜および記譜。旋律の記述。音楽教材。解釈。子どものオリジナルの旋律による作曲
スミス (Smith)	幼稚園と初等段階における音楽	声の文化：息継ぎ、歌の解釈。幼稚園の歌とゲーム。歌の選択についての基本。耳の訓練、リズムカルな歌とゲーム。幼稚園と学校に適した器楽曲の批評、読譜の準備。音符の読み方と書き方の最初の段階。旋律の作曲。
スミス (Smith)	幼稚園と初等段階における音楽 (2年目)	幼稚園と初等段階のための歌の特別な研究。声の文化。歌の解釈。耳の訓練。読譜と記譜。パートに分かれて歌うことの導入。教授法。
カーン (Kern)	幼稚園における音楽	声の文化、息継ぎ、歌唱における語り方 (speech)、音の立ち上がり (attack)、ピッチの正確さ(intonation)、歌の解釈、子どもの声、幼児のための耳の訓練、幼稚園のための歌の特別な研究、読譜、記譜、巨匠の作曲した子どもの歌
カーン (Kern)	幼稚園における音楽 (続)	歌の解釈、幼稚園活動で用いるのに適した旋律の作曲 (幼稚園訓練コースと強い関係あり)、ピアノ伴奏、幼稚園に適した器楽曲の批評。リズムカルな曲の選択の基礎。巨匠が作曲した子どもの歌の研究。
ブラッドレイ (Bradley)	幼稚園と初等学校における音楽	子どもの声、耳の訓練、リズム、読譜および記譜。旋律の記述。
カーン (Kern)	幼稚園における音楽	長調、短調、半音階、声の文化、息継ぎ、歌唱における語り方 (speech)、音の立ち上がり (attack)、ピッチの正確さ(intonation)、フレージング、歌の解釈、視唱、文化的な歌の研究。
カーン (Kern)	幼稚園における音楽 (続)	歌の解釈、幼稚園活動で用いるのに適した旋律の作曲 (幼稚園訓練コースと強い関係あり)、ピアノ伴奏、幼稚園に相応しい歌の教材についての批評。リズムカルな曲の選択の基礎。巨匠が作曲した子どもの歌の研究。
カーン (Kern)	幼稚園と小学校の音楽	長調、短調、半音階、声の文化、息継ぎ、歌唱における語り方 (speech)、音の立ち上がり (attack)、ピッチの正確さ(intonation)、フレージング、歌の解釈、視唱、文化的な歌の研究。
カーン (Kern)	幼稚園と小学校の音楽 (続)	歌の解釈、幼稚園活動で用いるのに適した旋律の作曲 (幼稚園訓練コースと強い関係あり)、ピアノ伴奏、幼稚園に相応しい歌の教材についての批評。リズムカルな曲の選択の基礎。巨匠が作曲した子どもの歌の研究。
カーン (Kern)	幼稚園と小学校の音楽	長調、短調、半音階、声の文化、息継ぎ、歌唱における語り方 (speech)、音の立ち上がり (attack)、ピッチの正確さ(intonation)、フレージング、歌の解釈、視唱、文化的な歌の研究。
カーン (Kern)	幼稚園と小学校の音楽 (続)	歌の解釈、幼稚園活動で用いるのに適した旋律の作曲 (幼稚園訓練コースと強い関係あり)、ピアノ伴奏、幼稚園に相応しい歌の教材についての批評。リズムカルな曲の選択の基礎。巨匠が作曲した子どもの歌の研究。
カーン (Kern)	幼稚園と小学校の音楽	長調、短調、半音階、声の文化、息継ぎ、歌唱における語り方 (speech)、音の立ち上がり (attack)、ピッチの正確さ(intonation)、フレージング、歌の解釈、視唱、文化的な歌の研究。
カーン (Kern)	幼稚園と小学校の音楽 (続)	歌の解釈、幼稚園活動で用いるのに適した旋律の作曲 (幼稚園訓練コースと強い関係あり)、ピアノ伴奏、幼稚園に相応しい歌の教材についての批評。リズムカルな曲の選択の基礎。巨匠が作曲した子どもの歌の研究。
カーン (Kern)	幼稚園と初等段階の音楽	学生の声の訓練：息継ぎ、ピッチの正確さ(intonation)、フレージング、幼児への歌唱指導方法、幼稚園および初等段階に相応しい歌の教材の選択を含む。
カーン (Kern)	幼稚園と初等段階の音楽	学生の声の訓練：息継ぎ、ピッチの正確さ(intonation)、フレージング、幼児への歌唱指導方法、幼稚園および初等段階に相応しい歌の教材の選択を含む。必須条件：読譜能力

(Annual Register (1906-1921) より筆者作成)

パーカーは、1875年マサチューセッツ州クインシーで教育長となり、1893年から1899年にかけては、シカゴ市近郊のクック師範学校 (Cook Country Normal School) とその後進のシカゴ師範学校 (Chicago Normal

School)の校長を務め、同校と同校附属の実習学校の教育刷新に努めた。パーカーの教育は、彼が自身の特別研究期間にドイツで学んだフレーベルの教育哲学と緊密に結びついている(松村1994 pp.20-21)。

パーカーは、自発的な活動を重視し、生活と結びついた教育を提言している(Elrod 2001, p.130)。1897年、パーカーはスミスをクック郡師範学校の音楽学部長に採用した。パーカーとスミスは、音楽が創造的芸術であるという考えを共有しており、その具体的な考えは、「音楽は人間の魂を固有の美に開くことが可能であり、それは音楽でなければ為しえない。また音楽は最も高貴で深い感情(感性)の表現を生活にもたらす」(Elrod 2001, p.130)ことであった。パーカーはスミスと同様に、アメリカで音楽教育を改善する最も効果的な方法は、教員を鼓舞し訓練することであると考えた(Elrod 2001, p.130)。

一方、デューイは、こうしたパーカーのフレーベルの教育思想を基盤とした教育論から影響を受けている(松村 1994, p.22)。デューイはパーカーから、教育の真の目的は知識を獲得させることにあるのではなく、学習活動を引き起こすことによって、習慣、技能、意志、性格を育てるところにあると教えられている。(松村 1994, p.22)。1902年にデューイは、スミスシカゴ大学教育学部に招聘した。エルロッドによると、デューイがスミスを招聘したのは、パーカーと同様に、音楽が創造的芸術であるという共通認識からであった。スミスは、音楽教育は常に子ども中心であるべきであると強調した。彼女の音楽教科書は、歌を基盤として作成された。シカゴ大学においてスミスは音楽の授業を担当し、音楽教育プログラムの見直しと改善をめざすデューイを支援した(Elrod 2001, p.133)。デューイが1904年に退職した後、スミスは1905年でフルタイム勤務を終了したが、その後1910年まで幼稚園教員養成用の音楽授業を担当している。

スミスは、シカゴの公立学校における音楽の向上運動にも参加した²。1898年にはこの運動のリーダーとなり、1898年に最初の教科書『現代的な音楽シリーズ』(The Modern Music Series)を出版した。このシリーズは、進歩主義教育運動で議論的となっていた心理学を持ち込んだものとなっており、子どもの性質をより理解し、それを教育方法に取り入れるという視点から執筆されている。エルロッドは、この『現代的な音楽シリーズ』は「児童研究運動の音楽領域での具現化」と表現され、音楽教育の新しい時代を先導する書として賞賛されたと述べている(Elrod 2001, p.134)。

スミスは、ひとつひとつの音楽の要素を取り出して訓練して記憶する従来の「視唱」の方法とは異なり、実際に曲を歌うことをとおして、その曲に含まれている音楽の要素を学ぶことを重視した。スミスはこの方法について、「幼い子どもは、話すことによって話し方を学ぶのと同じように、歌うことによって歌い方を学ぶのです」(Elrod 2001, p.134)と表現している。

また、子どもの歌の価値について、スミスは『音楽コース』(Music Course)の序文のなかで次のように述べている。

すべての歌の本の教育的価値は、歌い手の要望(Needs)に適応しているかどうかで決まります。

(中略)現在の曲集が、幼児の音楽的な独立の手助けとなるだけでなく、幼児の興味に沿った方向に進むことを願っています。(Smith, 1908, Preface iv)

さらに、『音楽入門』(Music Primer)では、「(この曲集の)すべての歌は、子どもの自然な活動および興味を表している」(Smith, 1911, Preface iii)と記述している。

こうした言述には、子どもの実態および興味や要望に基づき教育内容を設定するという姿勢が顕著にあらわれている。

スミスの歌集とフレーベルの哲学との関わりについて、アルパー(Alper, 1980)は、以下の事項にフレーベルの影響がみられると考察している。

- (1) 子どもの生まれつきの才能および意思を承認すること
- (2) 幼児期の一般性について認識をもつこと
- (3) 子どもの美的発達への関心をもつこと
- (4) 事実・技術を教授するとともに、対照的な案を示すこと
- (5) 子どもの本質と自発的な自己活動を理解し、劇として表現する・身体の動きで表現するなどの機会を設けること
- (6) フレーベルが示した教育の象徴的な視点を具現化すること

² 音楽は1848年にカリキュラムに導入された。

- (7) 自分のなかに内在しているものを具現化することにより自覚できるようにすること
(8) 簡潔な歌を含むこと (Alper, 1980, p.113)

子どもの音楽能力と興味に配慮するというフレーベルの考えを反映した結果、スミスの歌曲集は、声域は子どもが出せる範囲で、半音階や難易度の高い音程を避けた歌が収集されている。また、ピアノ伴奏は、歌を支えるよう旋律を含んだものとなっている。

スミスは1912年に発表した論文において、幼稚園の音楽について教師や専門家による次の批判があることを示している。

- (1) 多くの歌が教えられすぎている。そのほぼすべては思慮深く教えられていない。
- (2) リズムまたは耳の訓練のような細かい部分を重視しすぎている。その細かい部分が全体の目的となっている事例が多い。
- (3) 正しいテンポ・音程で歌うことが子どもに教えられていない。
- (4) 子どもの声域が観察されておらず、多数の歌は子どもの声域を超えている。共通して大変低い。
- (5) ピアノが未熟なまま頻繁に使用されており、子どもがその支援に依存してしまう。
- (6) 使用されている音楽教材が、歌詞も音楽も難しすぎ、幼児に適していない。

(Smith, 1912, p.144)

こうした批判をふまえて、米国の幼稚園音楽に適用すべき2つの改善策があるとスミスは主張した。1つめは、より良く、より多くの幼稚園教師への明確な訓練を実施することである。教師自身の音楽の才能を向上させること、教師のセンスを正確な（音の原理に基づいた）知識を伴うものにするのが非常に重要であると指摘している。もう1つは、より綿密に幼児の研究をすることである。スミスは論文において「注意深く幼児を研究することが、様々な事柄を明確にすることにつながる。生まれたての乳児に、10歳の子どもに合う歌を教えるのは間違いである」（Smith, 1912, p.147）と述べており、幼児の発達段階に適した歌を選択する重要性を強調している。

以上のスミスの音楽教育観をふまえ、シカゴ大学教育学部のシラバスの内容をみると、まず「子どもの声」について着目していることに特徴を見出すことができる。スミスは論文において、子どもの声域が観察されていないこと、幼稚園のほとんどの歌が子どもの歌える範囲を超えていることを指摘し、注意深く幼児を研究することの必要性を訴えている。こうした現場の状況をふまえて、シカゴ大学の授業において、子どもの声に関する様々な情報を教授していたと考えられる。

また、「耳の訓練、リズム、読譜および記譜、旋律の記述」という項目については、幼稚園における音楽活動を改善するために教師自身の音楽の才能を高めることが重要である、というスミスの信念を反映したものであると考えることができる。

さらに特徴的な点は、「子どものオリジナルの旋律による作曲」という項目である。アルパー（1980）がスミスの曲集について「自分のなかに内在しているものを暗示および具現化することにより自覚できるようにすること」（Alper 1980, p.115）を重視していると指摘しているように、スミスは子どもから自然に生み出された旋律を尊重し、その旋律をもとに作曲する技能をもつ教員を育成しようとしていたことが読みとれる。

スミスは、フレーベルの教育思想を基盤とし、子どもの自然な活動および興味など、子どもの性質を理解したうえで、自己に内在する情動を表現することが音楽活動の役割であると認識していたといえる。そのため、従来行われてきた音楽技能の基礎訓練から知識を得るのではなく、歌うことによって、その音楽を特徴づける要素を体感する音楽活動を実施することをめざしていたことが明らかとなった。

3-2. カーンによる音楽的要素に基づく音楽理解と鑑賞力の育成

カーン（Kern, May Root）は、1898年から1903年まで、デューイ実験学校の音楽教師として勤務していた。その後1903年より、シカゴ大学教育学部附属小学校の音楽教師として勤務し、1910年からはシカゴ大学教育学部の小学校教員養成コースおよび幼稚園教員養成コースの音楽授業を担当している。カーンは、ケイディ（Cady, Calvin, B.）³の教え子であり、彼の音楽教育思想から発展させた音楽解釈をもって、音楽指導を実施

³ ミシガン大学音楽講師（1880～1888）およびシカゴ音楽学校のピアノ教師（1888～1901）を務めた。

したことで知られている（キャンプ他著，小柳監訳 2017, p.199）。そこでまず、ケイディの音楽教育思想について確認する。

ケイディは、音楽を感覚ではなく観念の発達の産物ととらえていた。彼の音楽観念にはメロディー、リズム、ハーモニーという3つの要素があり、それぞれは知的に理解され、段階的に発展させなければならない。まず単純なメロディーを理解できるようにし、次にメロディーの基礎にあるリズムを理解し、その後ハーモニーの展開を理解する。これら3要素の概念的な理解を築くことで、音楽表現が可能となる。彼は、音楽を一面的に感情の表現と考えるのではなく、音楽は概念的な思考であり、それゆえに教育の重要な一要素であると考えていた（キャンプ他著，小柳監訳 2017, p.199）。

ケイディのこうした考えを基盤としつつ、カーンは実験学校で自分自身の音楽教育観を形成し、指導を行っていたと考えられる。カーンの音楽学習指導論については、荒巻（2001）が探究している。荒巻によると、デュエイの実験学校における音楽学習は、それ自体の体系をもたず、学年別に編成された融合的カリキュラムにおいて、子どもの表現欲求が現れたときに行うべきものであった。カーンの音楽学習指導論はその方法を探ったものであるが、実際の論は音楽学習を目的視する教科論的性格をもっていた（荒巻 2001, p.186）。荒巻はまた、カーンが学校における音楽指導の目的を良質な音楽の鑑賞力を養うことにおいていることも示している（荒巻 2001, pp.177-178）。

カーンの考える鑑賞力の基盤となるのは、旋律、リズム、和声という音楽的観念の要素についての理解であった。これらの要素の理解を促すため、音楽学習の領域としてカーンが示したのは、「耳の訓練」「リズム」「読譜」「歌唱」「歌づくり」の5点である（荒巻 2001, p.180）。

カーンは、実験学校で初等学校課程に所属していた際の実践内容を論文のなかで紹介している（Kern, 1900）。その内容から、彼女の音楽指導観および当時の実践状況を知ることができる。カーンは論文のなかで、次のように述べている。

音楽表現へ興味をもつことは、子どもが生来もっている性質のひとつである。自分が親しみをもった旋律について、その純粋で優しい曲調をくり返すことで、無意識に旋律の着想（conception）に気づくことができる。（中略）

音楽を聴けば聴くほど、音楽を自分のなかにとり入れ、それを表現しないではいられなくなる。しかも模倣だけでは終わらなくなってくる。子どもは詩から着想を得て自分で旋律にし、この創造的能力の開花が喜びとなって、美的本質全体の成長を促すことになるのである。子どもにとって自分で創造することほど大切なことはないので、自分の旋律の着想が消えてしまわないよう、それを表現する記号の知識をぜひとも学びたいと思うようになる。（Kern 1900, p.33）

以上の言述からカーンは、表現欲求を実現するために、音楽記号などの知識を獲得する必要があると考えていたことがわかる。

また、カーンが作曲活動に力を入れていたことについては、以下の記述から明らかである。

子ども自身の音楽的思考が制約なく表現されるのに比例して、子どもの作曲活動は価値をもつ。教師の仕事は、子どもが自分の考えを美しく表現できるよう、和声的な面から支援することである。（中略）

子どもによるオリジナルの曲は、粗野なものであっても、子どもの頭と心に訴えかける点では、大人が作曲した歌曲よりも優れている。（Kern 1900, p.43）

以上のように、デュエイ実験学校での初等教育においてカーンは、子どもによる音楽の創造を音楽指導の目的とし、その創造の手がかりとして音楽知識を獲得するという構想をもって実践を試みていたことがわかる。

雑誌への投稿文においても、耳の訓練、リズム、視唱といったすべての基盤として、歌の作曲が位置付けられている（Kern 1901, p.87）。

これまでのカーンの言述に基づき、1910年以降のシカゴ大学教育学部のカーンによる幼稚園コース用の音楽授業科目の内容をみると、「長調、短調、半音階、イントネーション、フレージング」など、音楽理論の

具体的な内容が多く扱われている。これは、子どもの音楽的発想の特徴を分析し、作曲に結び付けていくうえで、教師が基礎的な音楽理論を理解しておく必要性を示したものであると考えられる。

スミスが項目として挙げていた「子どもの声」は1911年以降項目からなくなっているが、「幼稚園に相応しい歌の教材についての批評」「巨匠が作曲した子どもの歌の研究」が項目として示されていることから、こうした授業のなかで子どもの声域や興味喚起といった内容が扱われていた可能性が高い。

これらの授業内容から、カーンは幼稚園コースの学生に対して、幼児よりも小学生を対象とした音楽指導を想定して授業を行っていたのではないかと考えられる。音楽理論が多く扱われているのは、カーン自身が小学校で音楽授業の実践を重ねており、教科としての音楽を意識して指導を実施したことに起因すると捉えることができる。と考える。

音楽の授業が幼稚園分野のなかに設置された1916年以降は、作曲の活動がなくなり、声の訓練や歌唱指導方法など、学生の歌唱実技能力の向上をめざした内容のみが記載されている。また読譜能力が受講必須の条件となっている。このことから、シカゴ大学における幼稚園分野の授業においては、歌唱力の向上に焦点があてられるようになった可能性がある。

4. おわりに

以上の考察から、20世紀初期のシカゴ大学教育学部幼稚園教員養成コースにおいては、学部全体の方針に伴って、音楽分野においてもフレーベル主義の教育方法から離脱する様子がみられた。また、小学校との融合を見据えた音楽活動のあり方を探究していることを把握することができた。

シカゴ大学における音楽授業の特徴は、①子どもの自己に内在する情動を表現することを音楽活動の目的と捉え、子どもの自発性を重視した音楽活動をめざした点、②音楽技能の基礎訓練から知識を得るのではなく、歌うことによって音楽を特徴づける要素を体感することに着目し、学生にはその要素を見極めるために基礎的な訓練を実施していた点であるといえる。またその背景には、フレーベルおよび進歩主義教育思想に影響を受けた音楽教員スミスおよびカーンの音楽教育観があったことが明らかとなった。

今後は、米国の他の幼稚園教員養成校における音楽授業の内容を分析・比較し、19-20世紀転換期の幼稚園教員養成における音楽の役割を探究することを課題とする。

引用文献・主要参考文献

- 1) 阿部真美子 (1995) 「アメリカ保育者養成史—幼稚園教師育成の発生及び変化の過程—」岩崎次男編『幼児教育制度の発展と保育者養成』玉川大学出版部、pp.222-239.
- 2) 阿部真美子・別府愛・滝沢和彦・菅野文彦編 (1988) 『アメリカの幼稚園運動』明治図書.
- 3) Alper, C. D. (1980) "The Early Childhood Song Books of Eleanor Smith: Their Affinity with the Philosophy of Friedrich Froebel", *Journal of Research in Music Education*, 28 (2), pp.111-117.
- 4) Alper, C. D. (1985) "Instinct & Imagination: Froebel's Principal of Self-Activity in Turn-of-the-Century Songbooks", *Music Educators Journal* Vol. 72, No. 2, pp.53-56, 58-61, 63.
- 5) 荒巻治美 (2001) 『アメリカ音楽科教育成立史研究』風間書房.
- 6) Elrod, P. G. (2001), "Vocal Music at Hull-House, 1889-1942: An Overview of Choral and Singing Class Events and a Study of the Life and Works of Eleanor Smith, Founder of the Hull-House Music School, イリノイ大学博士論文.
- 7) Green, S. L. (1998) "Art for Life's Sake": Music Schools and Activities in United States Social Settlements, 1892-1942", ウィスコンシン・メディソン大学博士論文.
- 8) 橋川喜美代 (2003) 『保育形態論の変遷』春風社.
- 9) Hill, Patty Smith (1910) "The History of the Kindergarten Song in America", *Kindergarten review*, 21(4), pp.193-206.
- 10) 藤原保利 (1999) 「アメリカ幼稚園運動史—1856年から1923年までを中心に—」『佐野国際情報短期大学研究紀要』第10号, pp.171-186.
- 11) 伊藤敦美 (2016) 「シカゴ大学教師教育カリキュラム—デューイ教育学科長時代と教育学部長時代—」『敬和学園大学研究紀要』第25巻, pp. 147-166.
- 12) Kern, M.R. (1900) "Song Composition", *The Elementary school record*. v.1 1pp.33-48.
- 13) Kern, M.R. (1901) "Music", *The Elementary School Teacher and Course of Study*, 1901, pp.87-88.
- 14) キャサリン・キャンプ・メイヒュー、アンナ・キャンプ・エドワーズ著、小柳正司監訳 (2017) 『デューイ・スクール—シカゴ大学実験学校：1896～1903年—』あいり出版.
- 15) 北野幸子 (2001) 「世紀転換期アメリカにおける幼児教育専門組織の成立と活動に関する研究：領域の専門性の確立を中心に」 広島大学博士論文.
- 16) 小柳正司 (2008) シカゴ大学時代のジョン・デューイの書簡について (6) —シカゴ大学教育学部の改組をめぐるデューイと教員団との対立について：1903年～1904年—『鹿児島大学教育学部研究紀要. 教育科学編』第59巻, pp.189-281.

- 17) 小柳正司 (2007) シカゴ大学時代のジョン・デューイの書簡について(5)―シカゴ大学教育学部の組織改革をめぐって―1902年～1903年『鹿児島大学教育学部研究紀要. 教育科学編』第58巻, pp.45-79.
- 18) Lascarides, C. and Hinitz, B. (2011) *History of Early Childhood Education*, Routledge.
- 19) 松村将 (1994) 『シカゴの新学校―デューイ・スクールとパーカー・スクール』法律文化社.
- 20) Payne, Bertha (1902) “Pedagogy of the Kindergarten”, *The Element School Teacher and Course of Study*, pp.5-9.
- 21) Ross, E.D. (1976) *The Kindergarten Crusade: The Establishment of Preschool Education in the United States*, Ohio University Press Athens.
- 22) 佐藤隆之 (2018) 『市民を育てる学校―アメリカ進歩主義教育の実験』勁草書房.
- 23) Smith, Eleanor (1887) *Songs for Little Children for the Kindergartens and Primary Schools Part 1*, Milton Bradley Co.
- 24) Smith, Eleanor (1894) *Songs for Little Children for the Kindergartens and Primary Schools Part 2*, Milton Bradley Co.
- 25) Smith, Eleanor (1908) *Music Course*, American Book Co.
- 26) Smith, Eleanor (1911) *Music Primer*, American Book Co.
- 27) Smith, Eleanor (1912) “Kindergarten Music” *Kindergarten Review*, vol.23, pp.144-149.
- 28) Stoddard, E. M. (1968) “Frances Elliott Clark: Her Life and Contributions to Music Education”, プリガムヤング大学博士論文.
- 29) 武内裕明 (2012) 「米国における幼稚園用の歌の本の発展の意義―20世紀初頭のVandewalkerとHillの見解の比較を通じて―」『広島大学大学院教育学研究科 音楽文化教育学研究紀要 XXIV』 pp.31-38.
- 30) The University of Chicago (1901) *The School of Education 1901-1902*, The University of Chicago.
- 31) The University of Chicago (1902) *The School of Education 1902-1903*, The University of Chicago.
- 32) The University of Chicago (1903) *The School of Education 1903-1904*, The University of Chicago.
- 33) The University of Chicago (1904) *The School of Education 1904-1905*, The University of Chicago.
- 34) The University of Chicago (1905) *The School of Education 1905-1906*, The University of Chicago.
- 35) The University of Chicago (1906) *The School of Education 1906-1907*, The University of Chicago.
- 36) The University of Chicago (1907) *The School of Education 1907-1908*, The University of Chicago.
- 37) The University of Chicago (1908) *The School of Education 1909-1909*, The University of Chicago.
- 38) The University of Chicago (1909) *The School of Education 1909-1910*, The University of Chicago.
- 39) The University of Chicago (1910) *The School of Education 1910-1911*, The University of Chicago.
- 40) The University of Chicago (1911) *The School of Education 1911-1912*, The University of Chicago.
- 41) The University of Chicago (1912) *The School of Education 1912-1913*, The University of Chicago.
- 42) The University of Chicago (1913) *The School of Education 1913-1914*, The University of Chicago.
- 43) The University of Chicago (1914) *The School of Education 1914-1915*, The University of Chicago.
- 44) The University of Chicago (1915) *The School of Education 1915-1916*, The University of Chicago.
- 45) The University of Chicago (1916) *The School of Education 1916-1917*, The University of Chicago.
- 46) The University of Chicago (1917) *The School of Education 1917-1918*, The University of Chicago.
- 47) The University of Chicago (1918) *The School of Education 1918-1919*, The University of Chicago.
- 48) The University of Chicago (1919) *The School of Education 1919-1920*, The University of Chicago.
- 49) The University of Chicago (1920) *The School of Education 1920-1921*, The University of Chicago.

本研究は、JSPS科研費17K04657の助成を受けたものである。本稿は、中国四国教育学会第72回大会（2020年11月）の発表に加筆修正したものである。

Kindergarten Teacher Training Curriculum at Chicago University

— Focusing on Music in the Early 20th Century —

Miho Imoto

*Department of Primary Education, Faculty of Education,
Okayama University of Science,
1-1 Ridai-cho, Kita-ku, Okayama 700-0005, Japan*

(Received November 1, 2021; accepted December 9, 2021)

The purpose of this study is to clarify the characteristics of the music activities in the kindergarten teacher training curriculums of Chicago University in the early 20th century. As a result of examination of these curriculums, the following characteristics of the music education of the curriculums became clear: (1) Placing a high value on children's self-motivation to cultivate the attitude to enjoy music by expressing by themselves, (2) Aiming to feel musical elements through singing experience. These curriculums indicated kindergarten teachers the necessity to educate intellectual aspects such as singing skills through music activities, and introduced some methods.

Keywords: music education; teacher education; curriculum; kindergarten.